Topics 1

第67回 全国植樹祭 ながの 2016

ひと ゆめ みどり

伝統から 未来へつむぐ 森づくり

6月5日、長野県長野市のエムウェーブで「第67回全国植樹祭 ながの 2016」が行われました。全国植樹祭は、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する理解を深めるため、昭和25年から各都道府県を巡って毎年春季に開催されている国土緑化運動の中心的な行事です。

長野県では昭和39年に茅野市で開催された第15回大会以来、52年ぶり2回目の開催となりました。

森山農林水産大臣へ緑の少年団から苗木の贈呈

式典プロローグ（飯田市の東野大獅子の屋台獅子）

式典エピローグ（松本蟻ヶ崎高校書道部が力強く書き上げたメッセージ）

天皇陛下によるお手植え

皇后陛下によるお手播き

テーマは〈信濃から 未来へつなぐ 森づくり〉

今大会の主会場となった長野市のエムウェーブでは、県内外から約5，700人の参加者が集いました。「信濃から 未来へつなぐ 森づくり」を大会テーマに、①植えて・育て・利用する「森林・林業のサイクル」の実現、②森林や身近な緑の恩恵の再認識、③森林と共に生きる人々の活躍の発信を開催理念に掲げ、長野県から始まる「森林を活かし 森林に生かされる 私たちの豊かな暮らし」を全国に発信する絶好の契機として開催されました。

「緑の循環」を未来につなぐ

式典前のプロローグでは、県内各地の「木と森の文化」に関わりのある山車等が集結し、県民の力と心がひとつになる様を表現したダイナミックなアトラクションが上演されました。

式典冒頭で、熊本地震の犠牲者に参加者全員で黙とうをささげました。式典では、大会会長の大島理森衆議院議長（国土緑化推進機構会長）が「国民全体の心がひとつになり、美しく豊かな森林をつないでいく力になることを願う」とあいさつがありました。その後、全国の緑化功労者や各種コンクールの表彰が行われ、森山農林水産大臣などへ緑の少年団から県内の小学校などで育てられてきた苗木の贈呈が行われました。

両陛下のお手植えでは天皇陛下はヒノキ、ウラジロモミ、コウヤマキの苗木を、皇后陛下はシナノキ、タカトオコヒガンザクラ、ミズメの苗木をそれぞれ植樹されました。また、お手播きでは、天皇陛下はカラマツとクリ、皇后陛下はシラカバとナナカマドの種子を播かれました。天皇陛下が播かれたカラマツの種は52年前の植樹祭で昭和天皇がお手播きし、育ったカラマツから採られたものです。両陛下は介添え役を務めた緑の少年団の子ども達にお声をかけながら、お手植え、お手播きされました。

続いて、長野県下高井郡山ノ内町の志賀高原で森林再生活動「ＡＢ ＭＯＲＩ」に取り組む歌舞伎俳優の市川海老蔵さんが勧進帳の「延年の舞」を披露し、会場を盛り上げました。

当日県内各地で行われた植樹活動をテレビ中継などで繋ぎ参加者に緑の重要性を訴えた大会は、国土緑化推進機構の佐々木毅理事長による、森林の恵みと美しいふるさとをこれからの世代に引き継ぐための決意を述べた大会宣言、阿部守一長野県知事から来年全国植樹祭が開催される富山県の石井隆一知事に植樹祭のシンボルである「木製の地球儀」と東日本大震災被災地へのエノキリレーとして第69回全国植樹祭の開催県である福島県で植樹される予定のエノキの苗木を手渡すセレモニーで幕を閉じました。

次回の第68回全国植樹祭は、来春、富山県魚津市を主会場に開催される予定です。

式典で「勧進帳」を演じる市川海老蔵さん

植樹祭のシンボル「木製の地球儀」を手渡すセレモニー

写真提供：長野県（式典エピローグ、天皇陛下によるお手植え）